

宇都宮市立西小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○朝食や起床、就寝時間などの質問の肯定的回答の割合は県平均並みで、起床時間では肯定的な回答の割合は96.7%で、県平均と比べて3.8ポイント高く、基本的な生活習慣が身に付いている。

○「自分には、よいところがあると思いますか」という質問では、肯定的な回答をした児童が県平均より11.6ポイント高く、96.7%であった。また、「先生は、あなたの良い所を認めてくれていると思いますか」という質問の肯定的回答割合も96.7%と高いことから、学級活動や委員会活動、クラブ活動などで様々な教員が温かい言葉掛けをしていることが自己肯定感の向上につながっている。

○「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」という質問では肯定的回答の割合が90%で県平均より11.6ポイント高い。また、「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、お互いの意見のよさを生かして解決方法をきめていますか」という質問では、肯定的な回答の割合が県平均より5.8ポイント高い。「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」という質問の肯定的回答割合は96.7%で、授業中に話し合いの時間を十分に確保したり、学級活動で様々な企画について話し合い成功体験に結びつけてきたことが、話し合いの楽しさや重要さの理解につながっていると考える。

○ICT機器の活用に関する7つのすべての質問で、1の回答割合が県平均より高い。ICTを有効に授業の中に取り入れられていることがわかる。

●「国語の勉強は好きですか」という質問では、回答から2極化していることがわかるが、国語における授業の内容に関する質問は、ほとんどの設問で肯定的回答割合が県平均よりやや高いことから、「国語が好きではない」と回答している児童でも、項目別にみると肯定的な回答をしていることがわかる。児童が楽しいと意欲的に取り組める場の設定や授業内容の工夫を継続し、国語の学習への苦手意識の改善を図る。

○算数に関する質問の肯定的回答割合は県平均と大差ない。「算数の勉強は大切だと思いますか」の質問で肯定的な割合は96.7%と高く、「算数の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていますか」の質問でも肯定的な回答の割合は県平均よりも15.1ポイント高かった。このことから、算数の学習において多角的に物事を捉え、意欲的に問題解決に取り組もうとする姿勢が身についていることが分かる。

宇都宮市立西小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
宇都宮モデルの各過程の充実	「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、児童の授業への期待感を高め、一人一人が解決の見通しをもつことができる導入、十分な活動時間の確保と学び合いによる深まりのある展開、児童がすっきりと納得するまとめ・振り返りの終末を目指した授業づくりに取り組んでいる。	学習した内容について、次の学習に生かせると思うかの質問では、93%の児童が肯定的な回答をし、全国平均を大きく上回っている。引き続き、授業において、宇都宮モデルの徹底を図り、目的意識をもたせた上で問題解決学習やまとめや振り返りの時間を確保する。尚且つ今後に生かすという視点を提示していく。
対話的で深い学びに迫る学び合いの工夫	伝え合いや話し合い活動だけでなく、一人一台端末やICT機器を活用した効果的な交流方法の検討。教師のコーディネートによる議論の深まりや言語活動の充実を目指した働きかけをしている。	「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができているか」の質問では、肯定的な回答が全国平均を上回った。学校課題に掲げている各教科における対話的な場面設定やICT機器の効果的な活用という手立てについて、今後も継続的に実践していく。
個に応じた学習	高学年において、単元ごとに習熟度別学習やチームティーチングなど学習形態の工夫を図っていると共に朝の学習の時間におけるパワーアップタイムの実施により個別最適な学習に取り組んでいる。また、学習ボランティアの活用により生活面での支援や学習面における個に応じた指導を行っている。	算数の問題では、問題場面の数量の関係を捉え、式に表す問題で、全国の平均を2.5ポイント下回っている。計算のきまりを身に付け正しく計算する力は県平均同等かそれを上回る力が身についている。このことから、問題場面を正しく捉えるための読解力の育成も課題に挙げられる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「これまで自分の考えを発表する機会が、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたか」の質問では、県の平均をやや下回っていた。実際の国語の問題では、資料を活用して自分の考えが伝わるように表現することができるかの問題で、全国平均を1.7ポイント下回っている。	根拠をもとに思考を組み立て、事実と自分の考えを区別して書く活動の充実	今後も引き続き、国語科に特化せず各教科において、ペア活動やグループ活動などの指導形態の工夫やICT機器の効果的な活用をし、相手意識をもち表現する力の育成を図る。また、適切な資料活用育成のために、国語科を基に社会科や各種教科の学習においても資料活用場面を多く取り入れていく。